

平成 28 年度睦会のご案内

～皆様お誘い合わせの上、ぜひお越しください～

時：平成 28 年 10 月 19 日(水)11 時～14 時 30 分

会場：神戸元町 風月堂ホール

今年は講演を入れた内容になっています。20 年をかけて編み、昨秋、三省堂から「現代語古語類語辞典」(見出し語 2 万 1 千、小見出しを入れると合計約 7 万の見出し語、収録された類語は延べ 32 万 4 千語となり日本の類語辞典の中では最大級)を出版された元県立西脇高校長 芹生(せりふ)公男先生に講演いただきます。

長く高校の国語教諭を務めた芹生さんは西脇高の校長だった 1995 年、現代語から古語を引く「古語類語辞典」を出版し好評を得た。その後 20 年をかけて新たに編集したのが今回の辞典。「日本語を広く、深く見渡すことができる初めての総合類語辞典。日本語の歴史を知る上でも貴重な資料」と自負する。今回は「大辞林」と「福武古語辞典」を基礎資料に用いた。短歌用語辞典や歳時記などの語も加えた数十万語を、データベース化して整理した。収録した語は上代(平安時代以前)、中古(平安時代)、中世(鎌倉～安土桃山時代)、近世(江戸時代)、近代(第 2 次世界大戦まで)、現代の六つの時代に区分。現代語を見出しとして五十音順に並べ、それぞれの同意語、関連語を収めた。例えば「よ(夜)」を引くと、「ばんこく」(近世)▽「よさ」(中世)▽「よさり」(中古)▽「よひ」(上代)ーなどと、類語を時代別に知ることができる。「雨」は 357、「風」は 498 の類語が収められ、最も多いのは「死ぬ」の 660 語。芹生さんは「類語の多さから日本民族が古来、何に強く興味、関心を持ち続けてきたかを読み取ることもできる」と解説する。NHK 大河ドラマの脚本も手掛けた内館牧子さんは、芹生さんが前に出した「古語類語辞典」が手放せなかったという。今回の出版にも「ある単語を中古ではどう言ったか、中世では、近代では…と追っていくと、かつての日本人は、こんなにも美しく豊かな日本語を使っていたのかと目がさめる」などと推薦のメッセージを寄せた。(神戸新聞の記事より引用)

【演題：言の葉の森に分け入って二十年ー日本語の豊かさに魅せられてー】

●講演内容●

平成 7 年、現代語から古語を引く辞典『古語類語辞典』を刊行した。長い長い宿題がやっと終わったという感じで、後は定年まで 3 年間、校長の仕事に専念しようと考えていた。ところが、金田一春彦博士がその「序」で二つの課題を出されたのである。夏休みも終わろうとしているのに、忘れていた宿題を思い出した高校生のように、しゅしゅその宿題に取り掛かった。それが、その後 20 年に及ぶ艱難辛苦の始まりだった。

上代から現代までの日本語を時代別に 32 万語も検索できる画期的な辞典『現代語古語類語辞典』はどのようにして生まれたか、その苦勞の数々を語る。

28 年度は総会も睦会も、年ふるほどに愛おしい日本語にまつわるお話しです。それぞれの先生の切り口をお愉しみください。

例年同様 8 月頃に該当の会員の皆様に案内の往復葉書を差し上げます。ふるってご参加ください。当日は講演の後、ランチを楽しみ、食後質疑応答も兼ねてひとときを愉しみたいと計画しております。

担当：昭和 48 年卒

平成 28 年度 睦会報告

41 回目の今年度は平成 28 年 10 月 19 日（水）、神戸元町の風月堂ホールで開催され、46 名が集いました。

今年の睦会のコンセプトは「糸」と「言葉」です。

共通の赤い糸が一本入った私たちの織りなす人生の布、60 歳を過ぎて一段と味が出て参りました。そして織り上げる中でたくさんの言葉との出会いが布に彩りを作っていることを年ふるほどに実感しています。年々、言葉への愛おしさが増していることに気づかされます。

収録語数延べ 324,000 語という上代から現代までの言葉を時代別に集めた画期的な類語辞典『現代語古語類語辞典』を編纂された元西脇高等学校校長芹生公男先生による講演「言の葉の森に分け入って二十年ー日本語の豊かさに魅せられてー」を拝聴してますますその感を強くし偉業に深く感じ入りました。

講演後、S24 卒の並川明子様乾杯の音頭を取っていただきランチ、歓談を楽しみ、質疑応答等のあと、中島みゆきの「糸」を皆さんで歌い、校歌を斉唱後、閉会の挨拶を S32 卒の林茂代様からいただきました。平成 29 年度は S49 年卒の皆さんのご担当です。



睦会が終わって 10 日後の 10 月 29 日、ラジオ関西で毎週土曜日午前 7 時からやっている「ひょうごラジオカレッジ」で芹生先生がこの辞典についてお話しをされました。会でも予告をされていたので聴かれた方がおられたことと思います。あらためて大きなお仕事をされたのだと再認識し、そのことについて直接にお話を聴けたことの幸せを感じました。

総会や睦会で皆さんと歌う貞明皇后御下賜の校歌ですが、先日今年度の佐保会代議員定時総会のあとの同窓会佐保会の懇親会の席で今岡学長がされた挨拶の中で、お茶の水女子大主催のあるセレモニーで美智子妃殿下と同席され、その際に貞明皇后お手植えのカリンの木は今でも実をつけますかと尋ねられたという話をされました。それを聴いてあついものがこみあげた私、睦会では今までになく熱唱。。（橋本陽江 記）